

## 巻頭写真 貴州省東北部梵淨山のテリハブナとナガエブナの優占林

Forests dominated by *Fagus lucida* and *Fagus longipetiolata* on Mt. Fanjing, northeastern Guizhou, China

中国南部の揚子江中・下流域を中心に、北は秦嶺山脈、南は南嶺山脈から雲南省南東部までの山地域には、ブナ属が優占する林が分布している(楊, 1999)。このうち、貴州省東北部の武陵山区南部に位置する梵淨山には、テリハブナ *Fagus lucida* とナガエブナ *Fagus longipetiolata* が優占する林が分布する(楊, 1999; 汪ほか, 2005)。梵淨山は、鳳凰頂(標高 2572 m)と老金頂(標高 2474 m)を中心とする自然保護区であり、自然林が広域にわたって残存している。自然保護区の入口から標高 920 m のロープウェイ駅まではマイクロバスが運行し、そこから老金頂まで石段の登山道がある。ロープウェイでは標高 2100 m まで登ることができ、梵淨山を訪れた 2010 年 11 月 3 日は紅葉の時期で、ロープウェイから眺めるブナ属の紅葉と常緑広葉樹の緑のコントラストが見事だった(写真 1)。

ナガエブナ(写真 2)は登山道付近では標高約 900 m から 1500 m まで分布し、落葉高木のササfras *Sassafras tzumu*, フウ属 *Liquidambar* やクスノキ科, ブナ科, ツバキ科の常緑高木と混生していた。標高 1200 m から 1700 m までの尾根筋や急斜面では針葉樹のコウヨウザン *Cunninghamia lanceolata* が多く、標高 1200 m から 1350 m にかけての尾根筋にはツガ属 *Tsuga longibracteata* が分布していた(写真 3)。テリハブナ(写真 4)は標高約 1300 m から出現しはじめ、標高 1500 m から 1900 m 付近までは高木層で優占していた(写真 1, 5)。登山道沿いでのテリハブナの分布上限は標高 2039 m で、胸高直径 35 cm, 樹高 9 m のテリハブナがアラカシ *Quercus glauca*, カバノキ属 *Betula*, カエデ属 *Acer*, ナナカマド属 *Sorbus*, イヌガヤ属 *Cephalotaxus* と高木層を構成し、低木層はツバキ属 *Camellia* とササ類が優占してシキミ属 *Illicium*, モチノキ属 *Ilex*, ヒイラギナンテン属 *Mahonia* を含む。標高 2100 m から 2200 m の植生は、樹高 4 m 程度の低木林から構成され、常緑樹のハマビワ属 *Litsea*, ネズミモチ属 *Ligustrum*, ハイノキ属 *Symplocos* と、落葉樹のニシキギ属 *Euonymus*, ガマズミ属 *Viburnum*, タニウツギ属 *Weigela* が混生していた。常緑樹と落葉樹の混交林が標高 900 m から 2200 m まで連続し、標高による相観の変化が明瞭な日本の植生に慣れていると奇異に感じられた。



写真 1 梵淨山の標高 1850 m のテリハブナと常緑広葉樹の混交林。テリハブナは樹高 20 ~ 25 m で常緑広葉樹よりも樹冠が広く突出している。常緑広葉樹はアラカシを含むコナラ属アカガシ亜属 *Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*, スダジイ属 *Castanopsis*, マテバシイ属 *Lithocarpus* が優占する。



写真2 ナガエブナの殻斗 (標高 1250 m).



写真3 *Tsuga longibracteata* (左上) とナガエブナ (右) の林 (標高 1300 m).



写真4 テリハブナの殻斗と果実 (標高 1650 m). 殻斗表面の鱗片は刺状に突出する.



写真5 テリハブナ林の側面観 (標高 1800 m). 樹高 20 m, 胸高直径 60 cm 程度のものが多く, 単幹で, 樹皮には日本のブナのように地衣類や蘚苔類がモザイク状に付着している.

テリハブナ, ナガエブナとも葉に鋸歯があり, 日本の新第三紀から中期更新世にかけて産出するブナ属化石に葉の形態が似る。梵浄山には新第三紀の日本に分布していた植物の種類も多い。この地域の植生とその環境を調べることは, 新第三紀の日本の古植生や古環境を解明する手がかりとなる。

#### 引用文献

- 楊 良, 1999. 中国南西部地方のブナ林に関する植生学的研究. 第 8 期プロ・ナトゥーラ・ファンド助成成果報告書, 123-137. (財) 自然保護助成基金・(財) 日本自然保護協会.
- 汪 正祥・藤原一繪・雷 耕耘, 2005. 中国の *Fagus lucida* 林と *Fagus engleriana* 林に関する植物社会学的研究. 植物地理・分類研究 53: 43-65.
- (百原 新・齊藤 毅・黄 永江・周 浙昆 Arata Momohara, Takeshi Saito, Yongjiang Huang and Zhekun Zhou)